

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年4月18日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：オープニング <b>【特集】緊急事態宣言は全国に～支え合う人々</b>		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言を受けての週末の草津温泉は</li> <li>・餃子のまち宇都宮が閑散</li> <li>・パチンコ店に県外ナンバー</li> <li>・山形で来県者の検温開始</li> <li>・鳥取砂丘で観光客がまばら</li> <li>・道後温泉本館も休館</li> <li>・オープニング</li> <li>・小笠原で震度4の地震</li> <li>・新型コロナ東京で181人感染し国内で累計一万人超</li> <li>・赤江珠緒さん感染判明</li> <li>・医学有識者会議の設立を発表</li> <li>・NYで感染した日本人駐在員のVTR</li> <li>・神奈川県大磯町で大嵐</li> <li>・熊本県高森町で店舗に車が突っ込み女性が死亡</li> <li>・令和のサクラ</li> <li>・ホテル隔離の当事者が語る</li> <li>・警視庁渋谷署に勾留の5人に感染確認</li> <li>・【特集】緊急事態宣言は全国に～支え合う人々</li> <li>・【特集】特殊詐欺に戻らない！</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし              番組のオープニングでは金平キャスターの「ええ、星野源さんのうちで踊ろうという歌とともに、安倍首相は自宅で優雅にくつろぐ様子を動画にアップしました、小さなことに思われるかもしれませんが、リーダーへの信頼感という点では実は大きな出来事です、人の心に響く信頼感とは一体、何でしょうか、今はそれを考えるときだと思います。」とのコメントが取り上げられていた。このシーンに当てられたのは20秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・【特集】緊急事態宣言は全国に～支え合う人々：結論→特に問題なし              膳場キャスターの「新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府は緊急事態宣言の対象を、全国に拡大しました」とのコメント、金平キャスターの「崩壊の危機に直面する医療現場を始め、苦境にある人々を支える動きが</li> </ul>		

広がっています」とのコメントを受けて、以下に朱記した VTR が取り上げられた。

安倍総理「混乱を招いてしまった事については、私自身の責任であり、国民の皆様にご心からお詫びを申し上げます。」

ナレ「陳謝した安倍総理。収入が減少した世帯への、現金 30 万円給付を取り下げ、国民 1 人当たり 10 万円の一律給付に突如変更した。」

ナレ「批判を受けたこの動画については、」

安倍総理「もちろんさまざまな批判があったということは、受け止めておりますが、賛否両論あったんだろうと、こう思います」

ナレ「そして」

安倍総理「緊急事態宣言の、対象を全国に、拡大することとしました。」

ナレ「東京で各世帯に布マスク 2 枚の配給が始まった昨日、緊急事態宣言の対象に加えられた県では・・・」

日下部「えーJR 熱海駅です。週末を控えた金曜の午後ですけれども、本当に人通りは少ないですね。」

アナウンス「マスクを持っていない人は、ハンカチや、ハンドタオルで口元を覆うなど、せきエチケットをお願いします」

ナレ「今週新たに緊急事態宣言の対象になった静岡県。先月下旬、県内有数の観光地、熱海には、外出自粛が始まっていた首都圏から多くの人々が押し寄せていた。昨日、駅前の商店街は」

日下部「かなり人は少ないね。」

日下部「こんにちは。静岡もね緊急事態宣言の対象地区に、これについてはどう思いますか？」

男性「まあ致し方ないとは思っております。」

日下部「商売的には非常にきついでしょ？」

男性「きついです。我々もこれで食べてますから、やはり休業要請あるのであれば、それなりの見返りじゃないですけど、補償してくれないと納得できない。」

日下部「今回の宣言を全国に出したのは、例えば大都市圏から今度のゴールデンウィークなんかにはね、人がどんだんどんだんこう熱海などの観光地に来ちゃうからっていつてるけど、どうよ？」

女性「それは感じますね。それだと普段からもうね、マンションや別荘をお持ちの方は、だいぶ熱海に見えるみたいで、内心ちょっとヒヤヒヤです。3 月もね、すごい若い人が、いっぱい来てたのでね。」

ナレ「観光業が産業全体の半分を占める熱海市。休業要請は出されていない。」

日下部「こんにちは」

ナレ「市内の旅館で、支配人を務める河合龍一さん。この旅館では部屋食が可能で、全ての部屋に風呂がついているため、客同士の接触を減らすことができるという。フロントにビニールシートで仕切りを置き、飛沫を防ぐなど、感染防止に努めてきた。」

支配人「これがもう対面には、やっぱり気をつけてやっています。」

日下部「かなりもう、事前に予約等入っていたんですか？」

川井祐一支配人「当初は入っていました。もう 1/3 ですね。」

ナレ「緊急事態宣言拡大で、さらにキャンセルが増えたという。休業については・・・」

川井支配人「やっぱり出るものが出てからじゃないと、うちもストップかけられないので、雇用を確保しなきゃいけないので、だからその辺が歯がゆい部分ですね。」

ナレ「県は、飲食店などが休業し、市や町が保証する場合、財政的な支援に乗り出す方針を示した。伊豆市はすでに、宿泊業者や飲食業者に営業自粛を要請。最大 300 万円の協力金を支給するとしている。」

ナレ「熱海市の担当者に聞いてみた。」

日下部 「静岡の中のいくつかの、観光地を抱えるですね 自治体はすでに休業要請を出していますね？その点こう熱海はどのように？」

熱海市植田宜孝危機管理監「現在、国の動向と県の動向、それから近隣の市町の状況を見ながら、それから本当の、実態ですね、ホテルや旅館の実態を見ながら、早く決断しなきゃいけないと言う問題意識をもって取り組んでいるところです。」

日下部「補償問題が非常に大きい？」

植田 氏「セットになると思います。」

ナレ「歯止めがかからない感染拡大。懸念されるのが医療崩壊だ。」

ナレ「東京都医師会の尾崎 治夫会長はこう訴える。」

尾崎氏「院内感染が増えていますので、 いろんなところの病院です、例えば医師が感染して 休まざるを得ない。ナースが感染して休まざるを得ない。これからのフェイズについてはですね、やはり、我々が見て疑わしい人は、積極的に PCR をやる。」

ナレ「東京都医師会は、検査件数を増やすため、病院の敷地なのに PCR センターを設置。地元の開業医などが交代で勤務し、採取した検体を、民間の検査機関に送る。来週から順次稼働し、来月上旬にも、10 箇所程度まで広げる予定だ。」

ナレ「一方すでに独自の取り組みを始めているのが、東京墨田区だ。」

日下部「こちらがですね、墨田区が設置した PCR 検査用のテントになります。今フル装備を着た先生が中に座ってますけども、あの後ろにですね高性能の空気清浄機があるので、ウイルスが先生の方にやって来ないようになっていると。」

ナレ「先週から区の施設内にテントを設置。事前に電話で問診を済ませ、5分程度で検体を採取する。墨田区での検査は、これまで週に120件ほどが限界だったが、300件まで増やせるという。」

墨田区保健所 西塚至 所長「急な肺炎や呼吸困難に陥って、病院探しをするというようなこともありまして、そこで壁になったのが、PCR 検査を受けていないので、感染症病棟に入院できないと、いうこともありました。そういった院内感染防止、または施設内感染対策の上からも、こういった行政が PCR 検査の需要を担う場が必要と。」

ナレ「検査体制の強化が急がれる一方で、」

日下部「防護服とかですね、マスク、あるいは消毒液の、それが医療機関のほう、最前線にまで充分行き渡っているかどうかというのが心配なところなんですけど。」

尾崎氏「まあ政府の方の、みなさんあの用意すると、準備するという話はあるんですが、お聞きするんですが、現場にはですねまだあんまり実際には届いていないんですね。例えば診療所にしても、病院にしても、もう一週間ぶんぐらいしかないといっているところもありますし、まだまだ少しあるんですけども1ヶ月は持ちそうにないと、」

ナレ「こうした中、岩手県陸前高田市。全国から善意の物資が続々と集まっている。」

女性「これとかありがたいよね。こんなに送ってくれたら。」

ナレ「倉庫いっぱい山積みされたダンボール箱。マスク、ゴーグル、防護服など、これらは全国各地の市民から寄付されたものだ。特に不足していると言われる医療用の高性能マスク N95 を大量に送ってくれた人も。寄付を募っているのは、震災関連の社団法人を運営する秋山真理さん。交流のある医師らとともに、最前線にマスクと防護具を 実行委員会を立ち上げた。」

秋山真理氏「医療従事者の人って、身を粉にしてみなのために働いてくれてて、そこの命が救えないと、うーん、なんていうかな。報えないっていうかね。やっぱりできることがあるのであれば今やらないと、いけないなって思いましたね。」

ナレ「新型コロナウイルスと戦う医療従事者に、マスクや防護具を届けようと SNS で呼びかけた結果、10 日あまりで、100 件以上集まったと言う。」

ナレ「秋山さんと共に活動している、萩山昇医師は」

帝京大学ちば総合医療センター萩野昇内科講師「過去に日本はですね、新型インフルエンザ、その他ですね、そういった一時的に国民の衛生観念が、向上した時期がありまして、その時にお買い求めいただいて、そのままに私蔵されている N95 マスクとかがあったりするわけですね。本当に危機的な状況を脱するというのがコンセプトなので、緊急避難的に作業させて頂いています。」

ナレ「さらにこのプロジェクトでは、医療従事者に、激励の手紙も届けている。」

手紙「大事な命を守るためにマスクも防護服もつけられないまま、頑張っていてくれること。私たちは応援しています。」

手紙「私を含む国民がこうしてられるのも、皆様の献身あってのことと、深く感謝しております。」

ナレ「寄付されたマスクと防護具を受け取った山畑佳篤医師。勤務している京都府立医科大学附属病院は、感染症指定医療機関として多くの患者を受け入れている。」

山畑医師「コロナウイルス対応 2 を使っている N95 という高性能マスクですが、アメリカが禁輸したという影響もあって、次の入荷が見込めない状況になっています。本来であれば、これまで通常の医療の中では、使うと捨てて、また新しいものを使うという状況だったんですが、今はそれを長期にわたって使わざるを得ないようなそういう状況になっています。」

ナレ「こうした中、秋山さんらの活動によって、寄付されたマスクが届いたのだ。」

山畑医師「多くの人からこういったサポートを頂けるというのは、物という面でもそうなんです、気持ちを頂いたことが、我々を心強くしていると思います。全ての人の気持ちとそういう行動が繋がって、この新型コロナウイルス感染症に、立ち向かっていく力になると思います。」

ナレ「新型コロナ感染症の拡大で、特に不安を募らせているのが、妊産婦だ。母親学級や、両親学級が次々と休止となり、孤立化している。」

膳場「えー5 年前、妊娠中でした。」

ナレ「助産婦の、ネットワークがオンラインで行う両親学級を取材した。この日は妊娠初期の女性を主な対象に、妊娠中の過ごし方をテーマに行われた。」

参加者「今日の赤ちゃんの様子だったり、自分の体調だったり、あと参加したきっかけとかお話を聞けたらと思うんですけど。」

妊娠 16 週の女性「家ではテレビでニュース流してまして、その妊婦さんかかった方もおられるので、赤ちゃんもかかってる子もいて、めちゃめちゃ怖いですね。」

妊娠 25 週の女性「検診の時は特に不自由はないんですけど、出産の時は面会ができなかったりとか、立ち会い出産ができなかったりとかって、今まで通りの出産とは違うのかなって一ついうふうに感じます。」

ナレ「講義の後は少人数に分かれてのグループワーク。例えば妊婦の体重管理については、」

講師の助産師 三浦由香里さん「大きく大股で動いたりとか、あとお家でだったら家事をね徹底してやってもら。この時期散歩行くのは怖いな一つということでも、毎日今日は雑巾がけをしよう。明日は窓拭きしようとか。そういったのでやってもらおうと、家中もピカピカになるし、一石二鳥だと思います。」

ナレ「参加者はお互いの顔を見ながら意見交換することで、強い連帯感を持つことができるという。」

妊娠 12 週の女性「こういう機会をいただいて、皆さんと一緒にやっぱり赤ちゃんを最後まで、元気に育てられるようになって、力を今日もらうことができました。」

ナレ「会の代表で助産師の、杉浦加奈子さんにきいた。」

膳場「妊婦さんの置かれている状況どんなふうだなお感じになりました？」

「じょさんし online」代表で助産師の杉浦加菜子さん「里帰りする予定だったのにできなくなってしまった。もしくは中には断られているような方達もいらっしゃるの、妊婦さんたちが無事に出産にできるのかどうかという不安がすごくあるんだなというのは、感じました」

膳場「そういう中、具体的な不安に対しては、どんなようなアドバイスをしていらっしゃるのですか？」

杉浦氏「そばにいるから安心してね、っていうことをお伝えしています。あの一病院の体制とか、そういうのは、私たちでは変えることはできないですが、あの、心理的な支えには、なることができるかなと思っております。」

ナレ「新型コロナウイルスの危機の中、支え合う人々。文化についても支援の輪が広がっている」

金平「今開けてもらったんですけども、ずっと閉まりっぱなしなんですね。」

男性「8 日。」

金平「緊急事態宣言出たからですね？」

男性「電気も落としちゃって。真っ暗な感じですね」

金平「真っ暗」

ナレ「東京渋谷にある老舗のミニシアター。ユーロスペース。古くは、ゆきゆきて神軍。最近ではカメラを止めるな！などを上映してきた。」

男性「こちらが小さいスクリーン 92 席。」

金平「92 席ね。」

男性「こちらが 145 席の大きなスクリーンになっています。」

金平「はーはーはー。ユーロスペースワン・ツーですね。」

ナレ「1 ヶ月の休業で、およそ 1700 万円の売り上げが見込めなくなった。支配人の北條誠人さんはこう語る。」  
北條支配人「支払いをどうしようかと思えますよね、まず。スタッフの雇用の確保。銀行への返済っていうのもありますから、その返済、どうなっていくんだろうかというのもありますし、結局とりあえずあの、緊急融資とか、あのいろいろ手は尽くしてはいきますけれども、長期化したらどうなっていくかっていうの、全くわからない状態ですね。」

ナレ「こうした事態に今週。」

金平「緊急事態宣言の発令によって、まさに今存亡の危機に立たされている、ミニシアターを救えということで、映画監督やあるいは、劇場関係者の方たちが、今、ここに集まってですね、オンラインによる記者会見をこれから行うということです。」

映画監督 諏訪敦彦さん「非常に緊急的にですね、この映画館を救わなければいけないと。」

ナレ「映画監督の、是枝裕和さんや、俳優の安藤サクラさん。井浦新さんらが呼びかけ人となり、ミニシアターを救うためのプロジェクトが立ち上がった。」

ナレ「映画監督の白石和彌さんは、」

白石氏「存亡の危機だと思えますね。ミニシアター文化が、日本の映画文化を支えている部分もあるので、本当にこれがなくなると、未来の日本映画がどうなっちゃうんだろうという感じですね。」

ナレ「インターネット上で資金を募るクラウドファンディングも始まった。再来年まで使える未来のチケットや、

映画のストーリーミング配信などを販売したところ、3日で目標の1億円を超える支援が集まった。今後全国のミニシアター約80箇所それぞれ150万円ほど分配する予定だという。」

北條支配人「いわゆるクラウドファンディングは、ネットの世界のやり方ですよね。ですから比較的若い人たちが、参加してくれてるんじゃないのかなって、感じがしました。もう一方ではその、例えば五十歳以上、の方々の、かつてミニシアターで青春時代の一部を過ごされて、そこでとても良い経験ができたとか、心に残る作品がある。だからやっぱり応援したいっていう気持ちってのも、感じられますね。」

金平「感染の騒ぎを経て、生き残るっていう風に信じてますか？」

北條支配人「信じていくしかないですよね。」

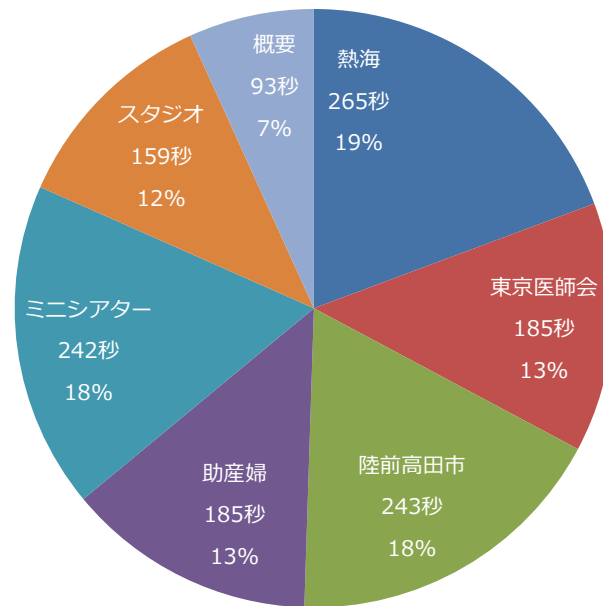
VTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

膳場「私は助産師と妊婦さんを取材したんですけどね、いま病院に出むくリスクを考えると、妊婦さんってどうしても家で1人悩みがちになってしまうんですよね。そんな中心記事を専門家に、相談できる。仲間同士で気持ちの共有ができるオンラインの会合というのは、不安解消に大きく役立っているようでした。一方で出産予定の病院が、コロナ患者を受け入れているために、転院をしたいですとか、転院する場合は2週間家で隔離期間を持ってと呼びかけている病院もあるというような、シビアな話を出まして、妊婦さんの置かれている厳しい状況も、垣間見えました。」

日下部「あの医療関係者何人か取材したんですけども、未だにマスクが届かないっていう現状を嘆いていましたね。あの日本の場合はですね、あのクルーズ船の感染拡大もあってして、欧米に比べるとですね、事態の深刻さを早く知り得たし、準備する時間もあつたはずなんですよね。私が話しているのは、人口呼吸器とか、高度な医療機器じゃなくて、マスクすら足りない。日本のレベルってこんなだったのかなとも感じますし、ですから、この民間レベルのですね、マスクを医療現場などに送る活動などを見ていると、官だけではなくてですね、官民が両輪になってこのウィルスに立ち向かう。その重要性を感じましたね。」

金平「あのね、昨日総理の記者会見がありましたでしょ。でこれはあの、言うまでもなく、どうコミュニケーションが重要な機会ですけども、そこで人々は、安心を得たり、あるいは希望を持ったりするわけですよね。あのメルケルさんの言葉が繰り返しませんけど、一つ安倍首相に申し上げておきたいのはですね、こんな危機の時くらいですね、プロンプターあの、いわゆるカンニングペーパーみたいな機械ですよね、それを使わないで、記者にちゃんと向き合ってですね、自分の言葉でちゃんと、話してはいかがかなということですね。学芸会じゃないんですからね。この間、あの、ぶれましたね。政府の10万円給付とかね。その時に麻生大財務大臣が、手をあげた人に1人10万円ということになるといっていましたが、この期に及んで一体何なのかなというように私は思いますね。」

この特集に当てられた時間は1372秒で、それぞれの当てられた時間は以下の通りであった。



様々な現場が取り上げられており、放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点からは高く評価できるものと言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨  
特に問題なし

#### 検証者所感

##### ・【特集】緊急事態宣言は全国に～支え合う人々

スタジオで金平キャスターが「メルケルさんの言葉が繰り返しませんけど、一つ安倍首相に申し上げておきたいのはですね、こんな危機の時くらいですね、プロンプターあの、いわゆるカンニングペーパーみたいな機械ですよ、それを使わないで、記者にちゃんと向き合ってますね、自分の言葉でちゃんと、話してはいかかなということですね。学会会じゃないんですからね。」とコメントしていたが、無責任に自分思うがままにコメントしているような金平キャスターとて、番組のオープニングのたった 30 秒にもコメントすら、何度も何度も下にある原稿を見なければ発言がおぼつかずカメラ視線を保ったまま発言するということすらロクに出来ない有様である。安倍首相とてそんな金平キャスターからプロンプターを見るな、などと言われるのは思うところがあるのではなかろうか。

また、日下部キャスターの「この民間レベルのですね、マスクを医療現場などに送る活動などを見ていると、官だけではなくてですね、官民が両輪になってこのウィルスに立ち向かう。その重要性を感じましたね。」という言葉やミニシアター支援のシーンが印象に残った。

やはり、どういうものを支援するのかというのを政治が権力的に決めるのではなく、私達国民一人ひとりが、自分が本当に支援したものを支援する、というのが望ましく、そのためにも減税と歳出削減を通じて自分たちが自由に使えるお金や時間を増やし、それによって共助の輪を広げていくことが大切かつ必要なのだと痛感する番

組であった。